

福 井 県 医 師 会

だより

第706号 令和2年(2020)4月



春を呼ぶ（勝山弁天桜）

鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：春を呼ぶ（勝山弁天桜）

鯖江市 清水 元博

勝山市内を流れる九頭竜川の右岸に約 1.5km 続く弁天桜並木は、「一目千本」と呼ばれ、県下で名の知れた桜の名所です。

毎年4月中旬には、約 450 本のソメイヨシノが咲き誇り、特に、加越国境の山並みの残雪や、河川をまたいで泳ぐ鯉のぼりとのコラボも見応えがあります。

撮影当日は、曇天でメリハリのない雰囲気でしたが、雲の切れ目から光が差し込んだ一瞬をとらえることができました。

醫 縫 録

福井県医師会理事に就任して 思うこと

保険担当理事 半 田 裕 二



新会長の下、県医師会理事に就任いたしました。保険担当として理解不足の中、他の理事の先生方のご指導のもと勤めています。自分のキャリアの中で医師会の仕事は想像していませんでした。国立病院機構の定年後は、悠々自適に過ごすよう言われましたが、縁あって私立病院での診療をさせて頂きました。敦賀での地域医療と共に県医師会への貢献を使命と考え、導いていただいた先生方に感謝しています。

振り返れば、医師として多様なキャリアを経験しました。学部卒業後、無給専修医の身分にて大学病院、県立病院等で勤務しました。緊急手術、術後管理、救急患者対応も昼夜連続して行い、今の「医師の働き方改革」に反しますが、脳外科医の修練には必要でした。専門医取得後は、福井の脳神経外科学講座の診療と研究体制の確立を行いました。脳血管障害の臨床を軸に、基礎的、臨床的研究を行い、英語論文を作成し世界に発信するとともに臨床に還元させました。研究結果に基づいた治療方法は、保険適応外として査定されましたが、保険審査の矛盾を感じつつも患者さんの為継続させました。

敦賀の国立病院機構病院では、厚生労働省の指導の下に、病院経営・管理を行いました。病院職員、地域医療機関、そして住民を守るという信念のもと、医師会、行政との協力を学びました。年に数回開かれる全国国立病院長会議では、医政局長等から医療行政の現状と今後について講演を承りましたが、医療行政は国家経済との関わりにおいて施行され、地域の病院には厳しい面も示唆され、地域での病院管理の困難性を理解しました。

我が国の国民皆保険制度は誇るべきものと思っています。国が示す「全世代型社会保障」の中で、この制度が維持され、地域医療が崩壊することなく、新しい形で発展すべきと望んでいます。日本医師会の将来ビジョン委員会は、医療は「社会的

共通資本」であり、職業的専門家集団により維持する必要があり、集団には高い学問的知見と倫理性が求められると、答申の序では書かれています。

現在、AIテクノロジーとバイオテクノロジーの進歩により世界は大きな分岐点に向かっています。多分野で、ビッグデータを活用したAIによる判断が優り、AIによる計画型経済政策が施行される可能性までも指摘されています。医療では、AI診断とゲノム解析に基づく新たな診療システムも始まり、保険制度、働き方改革、専門医制度の議論は些少の事に感じています。現在、武漢市からの新型コロナウイルス感染が世界中に拡大しています。各国の保健機関は最大限の対策を行っていますが、昨年末に今回のアウトブレイクを知らせていたのが、カナダの健康モニタリングプラットフォームでした。航空会社の発券データをも含む様々な情報をAI技術を用いて解析し、疾病監視プログラムとして政府や疫学者と最前線の病院へレポートを送り、対策を始めたとのこと（本寄稿文は1月27日時点）。

我が国でも、医療及び個人の動向に関して大きなビッグデータが存在しますが、いまだ有意に活用しきれいていません。医療制度に関すること、災害などの緊急対応の方向性などをAIテクノロジーを活用し、専門家集団が決定していく事が望ましいと考えます。日本医師会もまた同様のビジョンを持つべきと考えています。

私の能力ではAI技術などは不可能ですが、これまでのキャリアで学んできた事、医学と地域国民への貢献を基本として、福井県医師会と地域のために職務を果たしていこうと思っています。よろしく願いいたします。